

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年3月31日

事業所名 放課後デイサービスかしのき教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	小分けのスペースと大部屋があり、どちらでも対応している	遊具をもう少し用意できたらと思う
	2	職員の配置数は適切である	75%	25%	特に無し	もう一人いると配慮が行き届くと思
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	施設内は完全バリアフリー	階段しか登れない場所が建物の構造上ある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	毎日清掃し、空気清浄機なども完備している	死角について認識を持てるよう研修を行う
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	ケース会議を毎日行	ケース会議の内容をブラッシュアップしていく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	年1回行っている	回収率の向上や日々の保護者への聞き取りをより丁寧にしていく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	年1回行っている	保護者へのフィードバックを行う
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		事業所が出来て間もないため第三者評価を実施できていない
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	年間計画を立ててそのとおり行っている	研修内容のブラッシュアップ
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	半年に1度行っている	実施の効率化を図りたい
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	ニーズ調査表など使用	ツールをより実用的な形で改善していきたい
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	項目に分けて考えている	支援内容を意識して計画書を立てていくよう改善していきたい
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	ご希望に添えるようにしている	特に無し
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	ケース会議にて案を出し合っている	案がもう少したくさん出るといいと思
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	同一スタッフでなく入れ替わりで対応している	特に無し
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	個別中心に、必要に応じて同一時間の利用者との関わりを設定している	特に無し

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日振り分けを行っている	特に無し
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	当日もしくは次の日には必ず振り返りを行う	特に無し
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	記録は確実に取っている	特に無し
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	半年に一度行う	特に無し
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	必ず参加している	特に無し
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	0%	100%	母を通じてのやり取りはしているときはある	保育所や市役所との連携を構築していく
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	100%		事例無し
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	100%		事例無し
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0%	100%		事例無し
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0%	100%		事例無し
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	研修は受けている	職員のスキルアップのため受ける量を増やしていきたい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0%	100%	事例無し	情報収集をしていき構築に努める
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0%	100%	事例無し	事例無し
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	お迎えの際や連絡帳にてお伝えしている	保護者との関係性を深めていく
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%	アドバイスの形で対応している	必要に応じてスタッフが実施できるように研修などの機会を持つていく	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時説明している	特に無し	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	契約時及び半年に一度行っている	特に無し	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	モニタリング及びお迎えの際必要に応じて行っている	個別対応の時間を取れることを伝える
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	行っていない	希望があまりないように思われ
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	対応は適宜行っている	周知までは出来ていないが必要に応じてお知らせしていく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	お知らせは不定期に行っている	定期的に行えるよう実施体制を考えて行く
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	気を付けている	今後も個人情報の確保に必要な体制を整える
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	フリガナを振るなど対応している	フリガナを確実に振るよう徹底していく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	講演会などは開いている	コロナの状況を見つつ対応を検討していく
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	年間2回避難訓練を行う	感染症に関しての対応を保護者に通知する
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年間3回避難訓練を行う	特に無し
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	インテークの際確認している	特に無し
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	飲食はしない	特に無し
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	している	ヒヤリハットの規定を明確化する
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	研修実施	特に無し
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	契約時重要事項にて説明している	実例がない

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。